

すがたをかえる大豆

日時：10月18日（金）第5校時

学年：第3学年 16名

指導者：島田 良美

糸崎小学校で育てようとする資質や能力及び

* は今年度の重点項目

①課題発見・解決能力 ②思考力・判断力・表現力

③コミュニケーション能力

④主体性・積極性

⑤回復力

⑥協調性・柔軟性

⑦自らへの自信

1. 単元について

単元観

本単元は、新学習指導要領の第3学年・思考力、判断力、表現力等のC読むこと(1)ア「段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えること。」を受け、中心となる語を見つけたり、段落相互の關係の読み取り方を学んだりすることができる単元として設定した。

1学期に学習した「言葉で遊ぼう」や「こまを楽しむ」における、「問い」と「答え」を捉えたり、段落やまとまりに気を付けたりして読むことを前提に、文章全体の組み立て方や、段落相互の關係に着目して学習する。

また、書くことに関する次単元「食べ物のひみつを教えます」における、食品の例を挙げて説明する文章を書く活動と関連させて指導していくことができる単元である。

児童観

本学級の児童は、1学期に説明文の構成を学習し、説明文には「問い」と「答え」があること、説明文は「はじめ・中・おわり」の大きなまとまりで組み立てることを学んだ。授業の際には、「問い」に対する「答え」を本文中から見つけることができている。内容読解に関する単元末テストの正答率も85%と高い数値であった。その一方で、「答え」を見つける際に、教科書の内容をそのまま抜き出す児童が多く、關係性を捉えたり、中心になる言葉を基に「答え」を見つけたりしている児童は少ないと考えられる。

グループ内や学級内の話し合いでは、自分の意見を積極的に伝えようとするあまり、友だちの意見を聴くことが難しい児童もいる。自分の考えを相手に伝えることを基礎として、友だちの意見をしっかりと聴き入れ、互いの意見を大切にできるように取り組ませる必要がある。

指導の手立て

本単元の指導に当たっては、読み手を意識した説明文の工夫に気付き、得た知識を汎用的に活用していくために、次の三点を取り入れて学習活動を行う。

① 相手意識や目的意識を明確にした単元構成の工夫

全員が楽しく必然性をもって学習できるように、相手意識・目的意識を明確にもたせた話し合いを行う。本単元で学習する説明文の工夫を生かし、次単元で1・2年生に向けた「食べ物へんしんブック」を作ることを言語活動に設定する。

② クラゲ・チャートの活用

筆者が行った説明文の工夫それぞれの關係性に気付かせるために、クラゲ・チャート（關係付ける）を用いる。思考ツールを用いて児童の発言を關係付け、教材文の良さ・工夫を整理し、まとめる。

③ 聴き方を重視したグループワークの設定

互いの意見を大切にできるようにするために、聴き方を重視したグループワークを設定する。既習の話し合いの進め方を基に、相手の意見をしっかりと聴き入れられるような話し合いの場を確保することで、回復力の育成に繋げていく。

2. 単元目標と評価規準

観点	目標 (○内は育成を目指す資質能力の番号)	評価規準
知識 技能	考えとそれを支える事例、全体と中心など、情報と情報との關係が理解できる。①	・中心になる言葉（「くふう」）を見つけている。 ・筆者の行った説明文の工夫に気付いている。
思考力 判断力 表現力等	段落相互の關係を、叙述を基に正確に捉え、筆者が行った説明文の工夫を考えることができる。	・段落相互の關係を、叙述を基に捉えることができている。 ・説明文の工夫に対する自分の考えを表現している。
学びに 向かう力 人間性等	グループ内や学級内において、互いの意見を大切に話し合っている。⑤	・説明文の工夫について、相手の意見を聴き入れながら話し合おうとしている。

3. 指導計画とルーブリック (本時7/7)

時	学習活動	ルーブリック		資質	思考スキル (思考ツール)
		S	A		
1	学習計画を立て、初発の感想を書く。	A + 説明文の内容を捉えて感想を書いている。	学習内容や活動の流れをつかんでいる。	①	
2	はじめ(①, ②)の内容を読み取り、隠れた「問い」を考える。	A + 話題を適切に捉えている。	隠れた「問い」について考え、話題を捉えている。	⑤ ⑤	
3 4	中(③~⑦)の内容を読み、中心になる言葉を捉える。	A + 分かりやすい説明文の工夫に気付いている。	説明文の中心になる言葉(「くふう」)を捉えている。	⑤ ⑤	
5	中(③~⑦)の各段落の組み立て方や理由や事例の関係を読み取る。	A + その意図(読む人に分かりやすくするため。)に気付いている。	中(③~⑦)の段落の組み立て方や理由や事例の関係に気付いている。	①	
6	おわり(⑧)の内容を読む。◎	A + 筆者の主張を正確に読み取ることができている。	説明文のまとめを読み取ることができている。	⑤ ⑤	
7 本時	教材文の工夫や分かりやすさを、整理してまとめる。	A + その中から、自分を取り入れたい工夫を考えている。	説明文の工夫を、叙述を基に整理してまとめている。	① ⑤	関係付ける (クラゲ・チャート)

【次単元】 「食べ物ひみつを教えます」 食べ物へんしんブックを作ろう！

授業構成図

本時のねらい

教材文の工夫や分かりやすさを、整理してまとめることができる。
 (互いの意見を大切にして話し合っている◎)
 (人間関係形成・社会形成能力★)

目指す子どもの姿

S A+その中から、自分が取り入れたい工夫を考えている。
 A 教材文の工夫を、叙述を基に整理してまとめている。

引き出したい具体的な表現

S 変身ブックを作るときは、くしたいです。など
 A くふう、大豆、段落、分かりやすい、など
 ※本文の言葉を使っている。

深い学びの視点

- ① 既有知識を関連付けて考え、一階層上の知識を得る。
- ② 獲得した知識を汎用的に活用する。
- ③ 学習の目的を、より高い目的に価値づける。

見通しや実行方法を発想する場面

⑤ 自力解決をする。

T この説明文を読んで、いいなと思ったところや工夫を見つけてノートに書きましょう。
 ◆ 前時までに行った、読み取りの際の教科書やワークシートの書き込みを基に、いいなと思うところや工夫されている点をノートに書くよう声掛けをする。

⑥ 集団解決をする。◎

T ノートに書いたこの説明文の工夫を、班で交流しましょう。
 C 文章は、はじめ・中・おわりの三つに分かれていたよ。
 C 「大豆」とか「くふう」がたくさん使われていたね。
 C 「いちばん分かりやすいのは」が最初にあると分かりやすかったね。

⑦ 全体で交流する。★

T 班で出た意見を交流します。
 C 「いる」とか「いる」のような、手の加え方が詳しく書いてあったのがいいなと思いました。
 C 大豆がすがたをかえた食べ物がたくさんあるところがよさだと思えます。
 C 「次に」「また」「さらに」が段落の最初にあると、順番が分かりやすいです。
 C どんなくふうなのが段落の最初に書いてあったからいいと思いました。

T これらの工夫は、何のためにされている？

C 読む人のため。
 C 読む人に分かりやすく伝えるためだと思えます。
 ◆ 児童の発言を視覚化し、関連付けるために、板書でクラゲ・チャートを用いる。

⑧ 本時のまとめをする。

T 「すがたをかえる大豆」の説明文には、こんなにたくさん工夫があるんですね。みんながへんしんブックを作るときに使えるような工夫はありますか。
 C 食べ物がたくさん書くこと。
 C 「次に」「また」「さらに」を使って文を書くこと。
 ◆ 本文にある工夫を他の場面でも生かすために、へんしんブックを取り上げる。

⑨ 学習の振り返りをする。

C 「すがたをかえる大豆」にはいろいろな工夫があることが分かりました。へんしんブックを作る時は、大切な言葉をくり返し使って書きたいです。

対象と既有の知識とを関連づけ、対象が生じる原因を類推

課題を見出す場面

① 本時の課題を確認する。

T 前回までで、説明文の内容を全部読み終わりました。国分さんが一番伝えたかったことは何でしたか。
 C 大豆のよさに気付いて取り入れてきた昔の人の知恵はすごいこと！
 T そうだね。今日は、この「すがたをかえる大豆」の工夫をたくさん見つけてまとめていきます。

② 学習課題を立てる。

T 今日の課題です。
 学習課題
 説明文「すがたをかえる大豆」の工夫を、見つけてまとめてよう。

③ 解決方法の見通しをもつ。

T この説明文の工夫を見つけたのですが、何があればできそうですか。
 C ノートや教科書です。
 C 今までプリントにまとめてきているよ。

④ ルーブリックを設定する。

T 今日のAは、「すがたをかえる大豆」の工夫を見つけてまとめること。Sはどうしますか。
 C 発表出来たらSだと思えます。
 C まとめたことを友だちに説明出来たらSだと思えます。
 ◆ ルーブリックのAは、本時の学習課題に即して教師が提示する。

対象と既有の知識との「ズレ」を認識

思考スキル
 「関係付ける」
 ↓
 思考ツール
 「クラゲ・チャート」



